

## 《編集後記》

今号はSPring-8シンポジウムの特集号です。BL建設をすすめている各SG責任者に原稿を依頼しました。その折、今建設をすすめているBLに対して当面各SGが目ざしていた研究の立場からの満足度をコメントしてもらうことにした。「不満度」ではないことを御留意ください。大規模にして高度に洗練されたSPring-8のような装置ではいきなり本来の夢（研究）の実現を試みるのは危険です。第3世代の高輝度放射光に対しては身をもって初めて分かる多くの新しい経験を基にしてそれに見合う自分達の力量を引き上げることも重要です。その意味では当面「相乗りBL」の形で経験を積み将来に備えることがより速く夢の研究を実現できる1つのアプローチと思うからです。これが「不満度」ではない理由です。

難波 孝夫

気が付くと、師走はすぐそこに。この一年も慌ただしく過ぎようとしています。来年の今頃、幾つかのBLで「夢が現実に」成っていることでしょうか。そんな風景を現実味を持って描くことが出来ます。供用開始まであと10ヶ月余りとなった訳です。そのスケジュールに合わせて、研究課題申請、BL建設、実験ステーション及び実験装置の立ち上げ等々、SGの出番が近付くと共にテンションも益々上がって来ます。そう言えば、1月の「合同シンポジウム」と較べると、10月の「SPring-8シンポジウム」ではそうした熱気が直接的に伝わって来ました。いよいよ出番です。現在、建設作業参加メンバーの登録も進行しています。ビームライン担当者と共に建設の進行状況を把握し、作業の打ち合わせを行う様になれば、益々BLが身近な物になってきます。先行するESRFやAPSとの比較はひとまずおいて、我らがSPring-8の特徴を活かす実験装置の立ち上げに専心努力する事が肝要かと思えます。また、「光彩」の役割もこれに併せて変わって行くことでしょう。

圓山 裕

### 「光彩」 No. 12

1996年12月発行

発行	SPring-8利用者懇談会 〒678-12 兵庫県赤穂郡上郡町金出地1503-1 (財)高輝度光科学研究センター内 TEL 07915-8-0970 FAX 07915-8-0975
印刷	アイテム ジャパン 〒658 兵庫県神戸市東灘区深江本町3-1-6 TEL 078-413-5400 FAX 078-413-5335